文教厚生委員会
行　政　視　察

H29.7.12 ～ 14

【視察先/視察項目】

◇ 静岡県浜松市　【 H29.7.13(木) 09:30～11:00 天候 晴】
　☆「はままつ友愛の高齢者プラン」について

◇ 静岡県磐田市　【 H29.7.13(木) 14:00～15:30 天候 晴】
　☆「磐田スポーツ部活」について

◇ 愛知県豊川市　【 H29.7.14(金) 09:00～10:30 天候 晴】
　☆「高齢者のすまいの手引き」について

【行政視察参加者】

文教厚生委員会

委員長　小玉忠宏　　副委員長　福島勝郎
委　員　永田浩一　　杉村義秀　　楡田 勉
　　江内谷満義　　三角光洋　　畑中ゆう子
議会事務局　松永智美

静岡県浜松市　【 H29.7.13(木) 09:30～11:00 天候 晴】

浜松市の人口 806.407 人　　面積 1558.06 ｋ㎡　　議員定数 46 人

1「はままつ友愛の高齢者プラン」について

１プランづくりの背景と基本理念

浜松市は、全国 20 大都市の中で健康寿命が第 1 位と言う実績のもと暮らしやすい町としている。多くの高齢者は、介護や支援が必要になっても住み慣れた地域で、自立して生活を続けたいと願っておられ、この切実な願いに応えるために策定されたのが「はままつ友愛の高齢者プラン」である。

基本理念として、「地域で支え合い安心していきいきと暮らすことができるまち、浜松」元気な方が支援の必要な高齢者を支える仕組みづくりを提唱し、医療、介護、予防、住まい、生活支援のサービスを切れ目なく一体的に提供できるよう「地域包括ケアシステム」の構築をめざし平成 37 年を目途に取り組まれている。。

このプランに基づいて様々な関係機関や事業者との連携を図りながら、各種事業に積極的に取り組むことで「このまちに住んで良かった。そして、長生きして本当に良かった」と実感して戴けるような地域社会づくりを進めようとしているプランである。

２各種事業の取り組み

（１）浜松市ささえあいポイント事業

介護施設や地域で行ったボランティア活動に対して付与されるポイントを奨励金や寄付に交換できる制度。

目的

①高齢者の社会参加を奨励・支援し、ボランティア活動を通じた地域貢献意識や介護予防意識の向上を図る。

②地域住民と施設等の交流を促進し、地域に開かれた施設づくりにつなげる。

③地域住民相互の交流を促進し、支え合い活動の活性化を図る。

④高齢者が住み慣れて地域で安心して生活を継続できるよう地域の力で高齢者を支えていく。

☆活動する人 ⇒ 65 歳以上の市民。

☆活動場所 ⇒受入登録のある市内全域の介護保険サービス事業所。

☆活動内容 ⇒芸能等披露、行事の補助、ﾚｸﾘｪｰｼｮﾝ等の補助、話し相手、お茶出しや配膳等、洗濯物の整理や裁縫、草取り清掃等。

⇒ポイント 30 分につき 1 ポイント（100 円相当）一日の上限 4 ポイント（400 円相当）年間の上限 50 ポイント（5.000 円相当）

他、地域ボランティア、中山間地域ボランティア等の活動を「ささえあいポイント手帳」で管理する取り組み。

（２）浜松市徘徊高齢者早期発見事業

徘徊などにより行方が分からなくなった人を警察や行政、高齢者相談センター（包括支

援センター)、はままつあんしんネットワーク協力締結事業者、関係機関、地域の方々の力で出来るだけ早くご家族の元に帰れるようにする事業。

⇒オレンジシール（認知症などにより徘徊するおそれがある人の靴に家族が事前に市に登録し貼る。）

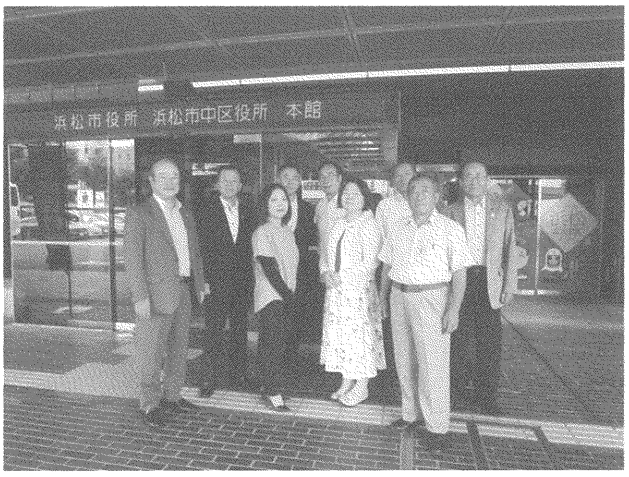
⇒オレンジメール（メール配信の登録をした見守り協力者に行方不明者情報メールを配信し早期発見に努める。）

（3）ロコモティブシンドローム

都城市が行っている「こけない体操」と同様の取り組み。骨・関節・筋肉の運動器の働きが衰え、立ったり歩いたりすることが苦手になってきた状態をロコトレ（ﾛｺﾓﾃｨﾌﾞｼﾝﾄﾞﾛｰﾑ）と言い「ロコトレ手帳」を交付してロコトレに取り組んでいる。

3所感

介護や支援が必要になっても住み慣れた地域で、自立して生活を続けたいと願っておられる高齢者の切実な願いに応えるために「はままつ友愛の高齢者プラン」に取り組み。「地域で支え合い安心していきいきと暮らすことができるまち、浜松」をテーマに、元気な高齢者が支援の必要な高齢者を支える仕組みづくり。元気な高齢者を使ってのユニーク取り組みであるが元気な高齢者づくりにもつながっており学ぶべき事業と感じた。都城市高齢者クラブも地域社会への貢献の活動の場を願い出ておられ参考に出来る取り組みと思った。



静岡県磐田市　【 H29.7.13(木) 14:00～15:30 天候 晴】

磐田市の人口 171.610 人　　面積 164.08 k ㎡　　議員定数 26 人

2「磐田スポーツ部活」について

1 活動の背景と取り組みの状況

県のモデル事業として指定を受け、通学先の中学校に希望する部活がない市内中学生徒の運動・スポーツの機会確保のために「磐田スポーツ部活」がスタートした。全国的にも地域スポーツの新しい形として注目される事業の取り組み（H28.5）であり、初年度は「陸上競技部」「ラグビー部」が創設され指導者は陸上競技部が市陸上競技協会から、ラグビー部はヤマハ発動機のラグビースクールのコーチが指導を行っている。

2 取り組みの背景と主体

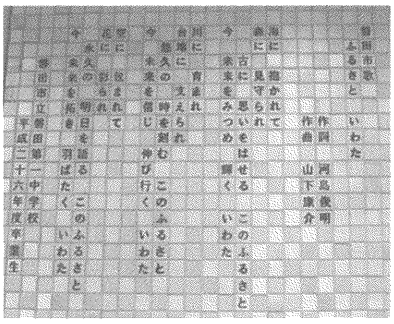
「磐田市スポーツ振興課」によって教師の多忙化の解消につながることも期待しての取り組み。地域スポーツクラブの設置は、経済開発機構の調査によると、教師の一週間の労働時間は、加盟 34 カ国の平均が 38 時間に対し日本は 54 時間。さらに日本は部活の時間が 8 時間で加盟国平均の 2 時間より極端に長い。また、部活動では経験のない種目も指導することもあり精神的な負担は大きい。磐田スポーツ部活は、地域クラブの扱いで大会には引率の教師が必要だが、指導は外部指導者のみで行える利点がある。練習場所や指導者の確保、スポーツクラブとの共存などの課題もある。磐田市渡部修市長は「一生懸命やって成果が出れば、クラブ設立の動きが拡がるのではないか」と期待しているとのこと。

3 今後の取り組み

県は 3 年間の委託期間でノウハウを蓄積し各市町に取り組みを波及させる考えであるとのこと。磐田市は今後部活数を増やしたり対象を高校生まで広げたいと検討している。

4 所感

中学校で部活が成り立たない救済措置としての取り組みである観点から考えると、学校教育課が主体となって取り組むべき活動であると思うところであるが、スポーツ振興課の取り組みで注目すべきと思う。活動の条件は、種目として部活が成立している学校からの参加は不可、競技力も学校の部活レベルで取り組まれている。人口減少による影響も考え複数校での部活の取り組みは将来を見据えた先駆けの施策でもあると考える。



愛知県豊川市　【 H29.7.14(金) 09:00～10:30 天候 晴】

豊川市の人口 185.084 人　　面積 160.79 ｋ㎡　　議員定数 30 人

3「高齢者のすまいの手引き」について

1「高齢者すまいの手引き」作成の背景

日本の高齢化は諸外国に例を見ないスピードで進行している。日本の高齢者人口は、65歳以上が国民の約４人に１人（24.8％）、75 歳以上が８人に１人、平成 47 年には約５人に１人と見込まれている。豊川市でも、現在 75 歳以上の割合が９人に１人と高齢化が進んでいる。

このため、国は平成 37 年を目途に高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで「重度な要介護状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制を構築する。」この政策に習い、豊川市は『地域包括ケアシステム』に取り組み、「医療・看護」「介護・リハビリテーション」「保健・予防」「生活支援・福祉」「すまいとすまい方」が一体的になって、それぞれの役割に基づいて互いに関係・連携しながら在宅の生活を支えていく必要性を示している。その中で、すまいとすまい方は植木鉢に例えられ、地域での生活の最も重要な基盤としている。高齢者が、自宅で住み続けるか、介護保険施設を利用するか、有料老人ホームやサービス付きの高齢者住宅に入居するのか判断する選択肢は多く、その判断材料として作成されたのが「高齢者のすまいの手引き」である。

２　「高齢者のすまいの手引き」

目次を見ると、１いろいろな「すまいと住まい方」。２「すまいとすまい方」を選んでみよう。３「すまいと住まい方」の内容と費用。などとページをめくると各種案内や諸費用等々が詳細に記されている。

３その他の取り組み

「見守りガイドブック」や「認知症の方とその家族・介護者支援ガイドブック」、人生の終わりを考える「エンディングノート」も作成され、高齢者クラブの案内、認知症とは、人生の終わりに遺産相続等と言った説明等も記し市民に配布して豊川市で安心して暮らすためにの取り組みが行われている。

４所感

国の考え方として、平成 37 年を目途に高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで「重度な要介護状態になっても、可能な限り住み慣れて地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることが出来るよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制を構築する。」この方針に基づき、それぞれの自治体で取り組みに尽力されており　「エンディングノート」には、興味が持てる一冊のノートでもあると思った。

文教厚生委員会行政視察報告書（感想等）

委員名　福島　勝郎

1　視察の感想

7月12日から14日まで文教厚生委員会で静岡県浜松市「はままつ友愛の高齢者プラン」について、静岡県磐田市「磐田スポーツ部活」について、愛知県豊川市「高齢者の住まいの手引き」について行政視察した感想をします。

1．浜松市「はままつ友愛の高齢者プラン」について

浜松市は、介護予防や生きがいづくり、健康づくり、社会参加活動などを促進し、高齢者にとっていきいきと住みやすい街づくりを行った結果健康寿命日本一です。

その中で、健康寿命の延伸、地域包括ケアシステムづくりの推進、認知症対策の推進高齢者見守り・支援体制の拡充、特別養護老人ホーム・介護付き有料老人ホームの整備の推進、元気な高齢者が支援の必要な高齢者を支える新たな仕組みづくりの推進の6つの重点施策に取り組んでいます。

高齢者の就業率が高いこと、医療機関が発達していること、オレンジメール・オレンジシールやボランティアを実施する人のための支え合いポイント手帳の交付などの取り組みがある事でした。

課題としては、介護人材の確保、ボランティア確保、高齢者のバスチケット廃止に伴う高齢者の移送・買い物・通院の整備が挙げられています。

行政が地域包括ケアシステム構築での役割が大切と感じました。

2．静岡県磐田市の「磐田スポーツ部活」について

磐田市は、地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会を立ち上げ、教育委員会は「スポーツクラブ」設立を行った。事業内容は、学校に希望する部活がない生徒に対しての合同部活、部活に所属している生徒及び他の部活に所属している生徒に対して競技レベルに応じた専門的な指導を行うスポーツ熟、新たなスポーツの体験を希望する生徒に対して学校部活のほかに、スポーツ教室等を開催する体験教室を行っていました。

部活の少ない学校に対しての配慮及び様々な施設を利用し上級者の指導もあり充実していました。

今後の課題は、中体連等の参加についてと、部活動の生徒の送り迎えが課題であるとのことでした。

3．愛知県豊川市「高齢者の住まいの手引き」作成について

豊川市は、四季折々の自然を楽しめ、歴史・文化が息づいている町である。

人口：185,751人で高齢者人口：46,703人、高齢化率：25.1％である。

医療と介護の連携が進んでおり、地域の医療・介護関係多職種を対象に多職種共同研

修会、提案募集型研修及びネットワーク講演会を開催して、高齢者支援に関わる専門職の知識を深めつつ、「顔の見える関係づくり」を行っておりました。

医療と介護の連携が年３回行われており、市民に対して様々なフォーラム、出前講座啓発物の作成、市民向け終活講座等を開催されていました。

その中でも、ICT 利活用の取り組みがなされており、電子連絡帳システムでは多様種の方達との連絡ができ、高齢者に対する行政・医療・介護・ケアマネージャ等の連携がなされていました。

2　視察の成果及び市政への反映等

1．浜松市では、徘徊高齢者早期発見事業があり、オレンジメール・オレンジシールを実施しており、メールでの呼びかけ、靴にオレンジのシールを張っての早期発見に努めており、本市においても取り入れたい事業と思います。

浜松市では、健康寿命のためにロコモーショントレーニングを実施しており、本市のこけない体操と同じ取り組みを行っているがロコトレ手帳を配布し高齢者に対しての意識づけを行っている本市においても手帳の配布を行ってもよいと考える。

元気な高齢者が支援の必要な高齢者を支える新たな仕組みづくりの推進を行っている、それは「ささえあいポイント事業」である 65 歳以上のボランティアを施設ボランティア・地域ボランティア・中山間地ボランティアを登録してポイント制をしいており、貯めたポイントを換金・寄付もできる仕組みづくりを行っており、本市においても今後の取り組みの参考にしたいと思いました。

2．磐田スポーツ部活について

部活動の少ない学校に対しての取り組みを本市でも考えていかなくてはいけないし、スポーツ塾みたいな専門の指導者によるスポーツを幅広くスポーツに関心を持てる取組みを本市でも取り組みを参考にしたいと思いました。

3．豊川市「高齢者の住まいの手引き」作成について

市民に対する様々な取り組みを本市でも取り組みを参考にしたいと思いました。

ICT 利活用については、１人の高齢者が退院にさいして行政・医療・介護・多職種の連携を行い情報交換ができる体制を作っており、本市においても特に参考したい取り組みであると思いました。

介護予防に関しては、人生の終わりを考えるうえで「終活」の知識について、「在宅医療」、「在宅介護」、「成年後見制度」、「遺産相続と遺言」、「葬儀・お墓」と市民に学んでもらう講座を実施しているのは、本市においても参考にしていただきたい。

生活支援の取り組みについては、「見守りガイドブック」、「高齢者の住まいの手引き」等を市民に対して発行しており、本市においても、高齢者・１人暮らしの高齢者に対して取り組んでいることについては、本市においても今後参考にしていきたいと思います。

文教厚生委員会　行政視察

永田　浩一

日程：平成２９年７月１２日（水）～１４日（金）

１．　７月１３日（木）

１）　浜松市役所　『はままつ友愛の高齢者プラン』について

平成１２年度スタートの介護保険制度の円滑な実施を図るため「浜松市高齢者保健福祉計画」と「浜松市介護保険事業計画」一体的に策定した。保険・医療・福祉分野に関する特定部門計画のひとつ（障がい者・子ども・若者支援などもあり）。各事業を推進し、そこへ関わることによりいきいきと元気に暮らす高齢者増を目指し、その割合を維持する。

高齢化率は平成３７年にピークになることが予測されている。高齢者が増えていくことに加え核家族化が進み地域とのつながりの希薄化が懸念されている。その状況の中で不安を抱える高齢者への対応が急務である。健康寿命が浜松市が男女とも第一位になっている。喜ばしいことではあるが、地域とのつながりが希薄化していくことで、孤独死・孤立死の問題は後回しにできない問題。地域の民生委員が中心に実態調査とその把握に努めている。認知症高齢者数の推移と共にその予備軍に関しても継続的に把握していく必要がある。１０年先を見据えた支援を検討してきた。

高齢者の定義は６５歳からとされているが、身体能力が高く元気ではつらつとされているため、高齢者と呼ばれることに違和感がある。６５歳から７４歳までの比較的若く元気な高齢者は「支えあい世代」として７５歳以上は「健康長寿世代」として位置付けている。支えあい世代は地域や社会出支えあう役割に期待がされている。

介護保険制度の改正は地域包括ケアシステムと持続可能な制度の構築を目的としている。要介護認定が急増する中、負担できる方への能力に応じた負担と低所得の重度の要介護者への保険料の軽減や介護サービスの重点化が大事になっている。

浜松市支えあいポイント事業は高齢者の社会参加を奨励・支援し、ボランティア活動を通じた地域貢献や介護予防意識の向上と、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続できるように支えあい活動の活性化を図るために始まる。施設や地域でのボランティア活動に換金可能なポイントを付与。元気な高齢者が要支援の高齢者を支える仕組み。ポイント手帳を配布し、ポイントに応じて使用できるものが選べるようになっている。

感想：高齢者と呼ばないことや、行政では行きとどかない部分に関して、自助・共助・公助の共助の部分を担うチャンスがあるということはとても大事である。何かできることがある、役に立てるということでそれぞれの責任感が生まれ、地域との関係性が構築される。生きていく上で、自分が誰かのためになるということは大きなポイントで、そのことにより自分を大切にする気持ちにも

つながっていく。年を取ることは止められないが、現在まで頑張ってきた人たちに対して感謝する意味においても、支えあうことの中心に高齢者自身が関わっていくということは生きがいにつながっていくと思われる。

2）　磐田市役所　『磐田スポーツ部活』について

通学先の中学校で希望するスポーツの部活動がない生徒を受け入れるため、地域スポーツクラブである「磐田スポーツ部活」を立ち上げた。このことで中学生のスポーツ活動の機会を充実や中学校教職員の負担を軽減し、学校部活動の枠を超え企業や大学など地域とのスポーツ連携を促進することを目指している。

事務局体制とし、磐田市スポーツ戦略室を作り、指導者との連絡調整や練習会場の手配、保険加入や大会出場手続きなど、活動に関わる事務全般を担っている。　始めるにあたっては、各中学校に訪問し校長に個別に説明・意見交換をしている。中体連関係者の理解とスポーツクラブ、保護者の理解も大切である。

生徒の送迎は基本的に自身で移動するか、保護者の対応となり、必要に応じて関係各所への説明や学校訪問などを行っている。学期ごとに指導者からの振り返りコメントを中学校に報告している。メディア対応が発生した場合は、磐田市スポーツ振興室担当を通して調整する。

スポーツの種類としては、陸上競技部・ラグビー部・スポーツ塾（卓球・陸上競技）・体験教室（トランポリン）・スポーツマンシップ教室（話す伝えるセミナー・食生活の大切さを学ぶセミナー）があり、指導者による中間報告会もある。

今後に向けては、アンケート調査も行い学校ごとに集計し報告している。課題としてこの事業・競技種類の継続実施や通部バス運行などがある。

感想：学校の規模や指導者により、その学校でできる部活が変わってくるという現実は都城市にもある。全ての競技を準備することはできないため、子どもたちのやる気に応えられないという状況もあるだろう。中学校にこだわらず、やりたいスポーツができる環境を整え、できるようにするというのは望ましいが、一方で交通の便が悪いという問題もある。しかし、もしもこのようなことができ、深くスポーツに関わる子どもたちが出てくれば、専門性が高まり、地域を代表する選手を輩出することにもつながるかもしれないと考えた。もう一つ、やりたいことができるという環境は、子どもたちの気持ちも豊かにさせると思う。

2．　7月14日（金）

1）　豊川市役所　『高齢者のすまいの手引き』作成について

愛知県地域包括ケアモデル事業（知久医師会モデル）委託業務の中で、医療と介護の連携を考えた取り組みが行われている。多職種共同研修会・提案募集型研修・ネットワーク講習会など準備し、専門性の高いものやニーズに合わ

せた講演会を計画実施している。広報・普及啓発に関する取り組みは「伝える」のではなく「伝わる」事を意識したフォーラムも開催。演劇・落語の手法を取り入れたものや図書館コラボ展示など実施している。そのような形を取り、直面している問題に対して考えるきっかけを作っている。他には出前講座による在宅医療の理解、わかりやすさを重視し漫画調のポスターや「人生の終わりを考えるエンディングノート」など啓発物なども作成している。介護予防教室も実施するなど、事業とそれにかかる取り組みが進展していくに伴い、関係団体や個人への負担の増加も課題となっているため、協力と連携を大事にし信頼関係の構築を図る必要がある。

すまいの取り組みとして『高齢者のすまいの手引き』作成をしている。高齢者の「すまい」と「すまい方」に関する情報をきちんと提供することが目的。住み続けるためのサービスや住み替えるための施設などの説明などが掲載されている。ひとり暮らし高齢者のすまいと生活支援ニーズ調査を実施し、住まいや生活上の心配ごとや困りごと等の現状について調査・分析した。ただ、すまいに関する施設などの情報なども変化していくため、冊子では情報が変わっていくことに対応できないことが課題としてある。作成した冊子は、関係各所に配布、活用依頼をしており、相談者に対し説明と共に資料として配布している。その他に、『知れる！選べる！働ける！高齢者施設の老活講座』などのイベントでも配布している。更新は介護報酬や施設の変更がある期ごとの３年に１度を予定している。冊子の作成の成果として、高齢者施設の特徴や違いの紹介や各所の相談窓口で相談の際の資料として活用できている。

感想：包括ケアシステムの説明から、福祉用具レンタル・緊急通報システム・住宅リフォーム工事補助金・高齢者向けの施設の案内など、大きい字で必要な部分にはイラストがあり、わかりやすく書かれている。情報はとても大事だが、高齢者本人だけではなく、家族や周囲にも同じようにこの冊子がいきわたるようにすると理解が進むのではないかと考えられた。簡易的なもので困った時に連絡するところを案内するだけでも作成できると安心を届けられるのではないか。

文教厚生委員会行政視察報告書（感想等）

委員名　杉　村　　義　秀

＜視察の感想・成果及び市政への反映等＞

◎「浜松市のはままつ友愛の高齢者プラン」について

人口７９７，９８０人、平成２９年度当初予算３２６４億円の中で、民生費９９，２２６，４６８円であり、この度の平成２７年から２９年度の「はままつ友愛の高齢者プラン」について学ぶ。
高齢者の高齢化率についてはＨ２６年で２０２，０８５人。
平成３７年に団塊の世代で２２２，２８７人と人口の６割、総人口の１７％となる予測である。
そうした中でその方向転換と見直しを３つの事業を対象として計画した所である。
１つは、バス、タクシー券等については交付単価の引き下げ６，０００円を４，０００円に、現在３億８千万の予算であるが平成２９年度には完全に廃止をする。
２つは、敬老会祝金の贈呈も約４千人の対象者を全般的に引き下げ８８歳で１万円に。１００歳で３万円とする。
３つは、敬老会の補助にしても７５歳以上２千円を見直しする方向で調整、検討する方向である。
そういったすべての施策の安全安心確保の為に市民が地域全体で支え合う為の仕組み作りを行い、そしてその成果の為に健康寿命の延長を伸ばす方向で推進している点について学んだ。

◎「磐田スポーツ部活」について

磐田市は人口１７万人で、都城市とほぼ同じ規模で予算は６，２６２千万円と約半分である。
県のモデル事業として、初めて中学校の部活動にスポーツの機会を充実させ教職員の負担を軽減させる為に学校の部活動の枠を超えて企業や大学等の地域スポーツの浸透を促進させる事が目的であり、市のスポーツ課が担当して陸上部やラグビー部又スポーツ塾では卓球やトランポリンなどを開催し世界で、全国で、活躍している選手を呼んで教室を開いて指導している。
特に、ラグビー部の部活は、ヤマハ発動機㈱よりジュビロ選手等をよんで、指導にお願いをしており、予算も１千万位で県委託金として事業予算化している。
有名な有能な選手に特別講師をして来てもらう・コーチ陣が行政と一対として学校部活に合わせてフォローする体制については、今後、全国的に学ぶべきであり、体育協会とも協議しながら公認者の活躍する場をつくっていくべきであり、今後の課題や２年目の取り組みに期待をする所である。

◎豊川市「高齢者のすまいの手引き」について

平成２８年９月策定され、住み慣れた地域で自分らしい生活を送るために、この手引きは作成されている。
現在、国民４人に１人が高齢者、２０年先には３人に１人と予想され高齢化社会が進んでいる。
そのためにその取り組みを地域包括ケアシステムでされ、住まい・医療介護・予防・生活支援が一体的に提供されている。県のモデル事業として３ヶ年取り組みとして、それぞれの研修会や講習会を重ねて自分らしく生きる事の市民フォーラムを開催し、出前講座や啓発物の作成やポスター、そして、エンディングノートの配布は特に好評であり着視したのである。
いわゆる、その個人が人生の終わりを考えるノートであり、今後は、終活という意味では人間いつかは終わる人生の大きな最終着地点であり、最も重要な事であると考えた。

文教厚生委員会視察研修会感想報告書

視察期間：平成29年7月12日(水)～14日(金)

楡田　勉〖翔陽クラブ〗

◎　1日目(12日)水曜日

初日は移動のみで、久しぶりに鹿児島空港から中部国際空港まで飛行し、後は電車と新幹線で移動。夕方5時頃静岡県浜松駅に着いた。駅から徒歩3分のホテルクラウンパレス浜松に宿した。

◎　2日目(13日)木曜日

静岡県浜松市〔人口：806,407人〕〔面積：1558.06㎢〕

※調査項目：「はままつ友愛の高齢者プラン」

感想：浜松市役所で、朝9時半から11時まで調査事項「はままつ友愛の高齢者プラン」の項目で視察した。平成27年度から三ヵ年計画で、市長の基本理念で策定した「地域で支えあい安心していきいきと暮らすことができるまち浜松」として、元気な方が支援の必要な高齢者を支える仕組みづくりを提唱し、更に、医療・介護・予防・住まい・生活支援のサービスを切れ目なく一体的に提供できるように、「地域包括ケアシステム」の構築を目指した素晴らしい福祉政策を打ち出された。

◎　2日目(13日)木曜日

静岡県磐田市〔人口：170,375人〕〔面積：164.08ｋ㎡〕

※調査項目：「磐田スポーツ部活」について

感想：磐田市役所で、14時から15時半まで調査事項「磐田スポーツ部活について」の項目で視察した。人口は都城市と同じくらいだが、スポーツにおいては、サッカーとラグビーのトップリーグで活躍する2つのジュビロのホームタウンで、全国に知られている。磐田市では、スポーツ振興課がスポーツ戦略室の事務局体制を持ち、市職員と県職員(磐田市駐在1名)であらゆる担当業務を遂行している。こういう体制もめずらしくスポーツに対する本市との温度差がある。

◎　3日目(14日)金曜日

愛知県豊川市〔人口：185,751人〕〔面積：161.14ｋ㎡〕

※調査項目：「高齢者のすまいの手引き」作成について

感想：豊川市は、日本3大稲荷とも言われる豊川稲荷を始めとした観光資源が多数あり、Ｂ－1グランプリ全国大会の実施など、地域活性化の取り組みも盛んになっている。研修は9時から10時半まで市役所であり、医療と介護の連携の主な取り組みは、地域の医療・介護関係多職種を対象に多職種協働研修会等のネットワーク講演会を開催して、「顔の見える関係づくり」を推進している。予防の取り組みでは、人生の終わりを考える上で必要になる「終活」の知識について、学ぶ目的で「在宅医療」、「在宅介護」、「成年後見制度」、「遺産・相続と遺言」、「葬儀・お墓」という全5回の内容で実施した。特に、ユニークな研修内容で葬儀社の社員が、入棺体験の様子を学んでいる写真事例の内容があったが、僕には棺に入り練習している意味が解らなかった。

文教厚生委員会

平成２９年度：行政視察報告書

江内谷　満　義

【　視察日程　】　平成２９年７月１２日（水）～１４日（金）

１　７月１３日　　９：３０～１１：００　静岡県　浜松市
　　調査項目　「はままつ友愛の高齢者プラン」について

２　７月１３日　１４：００～１５：３０　静岡県　磐田市
　　調査項目　「磐田スポーツ部活に」ついて

３　７月１４日　　９：００～１０：３０　愛知県　豊川市
　　調査項目　「高齢者のすまいの手引き」作成について

１　「はままつ友愛の高齢者プラン」について

浜松市の概要

浜松市は、　・人口　　約　　８０万人
　　・総面積　約１５５８　㎢
　　都市部・・・先端技術産業が集積する
　　平野部・・・都市近郊的な農業が盛ん
　　中山間地・・広大な森林を擁する

都市将来像　「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市浜松』」

※　浜松市民憲章（の一部分）
　・自然の恵みに感謝し、美しい郷土を未来につなぎます。

※　都城市民憲章（の一部分）
　・自然のめぐみに感謝し豊かで美しい環境をつくりましょう。

１「はままつ友愛の高齢者プラン」の概要

浜松市はおよそ４人に１人が高齢者という超高齢社会を迎えており、さらに10年後は、いわゆる団塊の世代が75才以上となり、高齢者人口がピークに達するものと見込まれる。

超高齢社会の到来は、社会保障費の増大や労働力の減少など、マイナス面ばかりが取り上げられがちであるが、６５歳から７４歳の比較的若い高齢者の、約９割は身体能力が高く、社会参加意欲も旺盛な元気な高齢者と捉えている。

これまでに培った豊富な知識や機能を活かして、超高齢社会を乗り切り、豊かな地域社会を形成する大きなチャンスとなるもの（鈴木浜松市長）。

平成２６年には、厚生労働省の調査で、浜松市の健康寿命が、全国２０大都市の中で第１位の実績。これは浜松市が、暮らしやすいまちであるという裏付けであり、今後も「※　ロコモーショントレーニング」などの、介護予防や健康づくりに取り組み、健康寿命の延伸を図る環境を整えていきたい。との方針。

一方で、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯、または認知高齢者が急増しているため、市民の支えあいによる「はままつ安心ネットワークづくり」や認知症の総合的な対策をしていきたい、というもの。

多くの高齢者は、介護や支援が必要な状態になっても、できる限り住み慣れた地域で自立した生活をしたいと願っている。この切実な願いにこたえるために、今回策定した「はままつ友愛の高齢者プラン」である。

基本理念

「地域で支えあい安心していきいきとして暮らすことができるまち浜松」として元気な方が支援の必要な高齢者を支える仕組みづくりを提唱。

また、医療・介護・予防・住まい・生活支援のサービスを、切れ目なく一体的に提供できるように「地域包括ケアシステムの」構築を目指していく。

今後は、このプランに基づき、さまざまな関係機関や事業者との連携を図りながら各種事業に積極的に取り組むことで「このまちに住んで良かった、そして長生きして本当に良かった」と、実感できるような地域社会づくりすすめていきたい。

このプランは、浜松市の基本方針である「浜松市総合計画」を上位計画とし、保健・福祉・医療分野に関する特定部門の計画のひとつとして位置付け各計画との整合と連携を図っていく。（平成２７年から２９年の１区画の計画であるが）

高齢者人口がピークを迎える１０年先（Ｈ３７）を、見据えた計画とする。

高齢者福祉政策の方向転換と見直し

要介護者対策に重点化

浜松市の、高齢者を取り巻く状況は大きく変化し、弱い立場にある高齢者や支援を必要とする高齢者が増えています。このため１０年先を見据えた今後の高齢者福祉対策のあり方を市民の皆さんとともに検討する中で、より支援を必要とする高齢者への要介護対策に重点的に取り組むこととした。

そして、その財源を確保するため、これまでの高齢者向けに実施してきた３つの市単独大型給付事業を見直すこことした。

今後重点的に取り組む事業

1　重度の要介護者等のために生活の場を確保

・特別養護老人ホーム

・介護付き優良老人ホームの整備

（入所待機者の解消）

2　要介護状態にならないために運動機能の衰えを予防

・　※　ロコモーショントレーニングの普及

（介護予防の推進）

3　元気な高齢者の社会参加の仕組みづくり

・　※　支えあいポイント事業の推進

（ボランティア活動の奨励）

用語の説明　※「ロコモーション」

骨、関節、筋肉など運動器の働きが衰え、立ったり歩いたりすることが苦手になってきた状態を“ロコモティブシンドローム”略して「ロコモ」。

自宅で、行える軽い運動の組み合わせで体力に合わせ、無理なくできるように組み合わせた運動。（健康寿命の延伸策）

※「ささえあいポイント事業」

市内に住む６５歳以上を対象に、ボランティア活動を行った人にポイントを付与し、換金や寄付することができる制度。

高齢者の社会参加を奨励しボランティア活動を通じた地域貢献や介護予防意識の向上を図るのが目的。

市単独大型給付事業の計画的・段階的な見直し

1　バス・タクシー券等の交付

現　行

・７０才以上・ 所得制限有・対象者約１２万人・交付額　６，０００円

見直し案

・６，０００円を４，０００円（Ｈ２６年実施）

・平成２９年に廃止

2　敬老祝金・祝品の贈呈

現　行

・祝金（対象者　約４千人）

８８歳　３万円

９９歳　５万円

・祝品（対象者４千人）

８８歳、９９歳、１０１歳以上

見直し案

・平成２７年度

８８歳祝金　３万円➡１万円

９９歳祝金　５万円➡３万円

１０１歳祝品　廃止

平成２９年度から

８８歳祝金　１万円

９９歳祝金　廃止

１００歳祝金　３万円

3　敬老会の補助

現　行

対象年齢　７５才以上（補助金単価　２，０００円）

自治会等に交付

対象者数　約１０，５万人

見直し案・・・平成２９年に見直し予定

まとめ・考察

以上、浜松市の「はままつ友愛の高齢者プラン」について、研修を行いまとめたところである。浜松市も都城市においても、団塊世代が７５歳到達時の「２０２５年」をピークとした福祉・介護の対応策は、避けて通れない大きな課題と、再認識したところである。必死に取り組んでおられる福祉・介護行政の一端を垣間見ることができ、今後、官民一体となっての対応を痛感したところである。

「都城市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」について、事前研修の計画をしていただき、有難く思っている。（研修に大いに役立ちました。感謝！）

２「磐田スポーツ部活」について

磐田市の概要

磐田市は静岡県西部に位置し、温暖な気候、海や山、肥沃な大地と豊かな自然に恵まれ古くから、この地方の中心都市として栄えてきた。現在は、製造業や農水産業などの産業が、均衡ある発展を遂げている。

また、スポーツにおいては、サッカーとラグビーのトップリーグで活躍する２つのジュビロのホームタウンとして全国に知られている。

事業実施に至った経緯

静岡県総合教育会議に先立って行われる地域自立のための、「人づくり・学校づくり」実践委員会での清宮克幸委員の提案。平成２７年９月「地域スポーツクラブ」の設立。そしてモデル事業として磐田市で取り組んでいる。

事業の目的

・中学生のスポーツ活動機会を充実
・中学校教職員の負担軽減
・中学校部活動の枠を超え、企業や大学等、地域とのスポーツ連携を促進

事業の内容

学校に、希望する部活の種目がない生徒に対して、活動の場を定期的に提供するため、必要な合同部活を実施する。

その他に　スポーツ塾

・学校の部活に所属している生徒、あるいは他の部活動で活動しているが、興味・関心がある生徒を対象に、競技レベルに応じた専門的な指導を行う。

体験教室

・新たなスポーツの体験を希望する生徒に対して、学校部活の他にスポーツ教室等を開催する。

活動の配慮、工夫など

・生徒の送迎は、自分または保護者の対応。
・試験など、学校行事に配慮して練習日程を組む
・学校訪問等を随時行い個別に説明や相談。

事業体制

静岡県教育委員会

⇩

委託

磐田市　磐田市教育委員会　➡　各中学校情報提供・連携

≪事務局体制≫
・磐田市スポーツ戦略室で担当
・市正規職員①　県職員磐田市駐在①
・市嘱託職員②

≪業　務≫
・指導者の確保
・練習場の手配
・各種手続き（選手登録　大会参加申し込み　保険加入等）

≪協力団体の交渉≫
・ヤマハ発動機　・静岡産業大学　磐田市体協　・関係団体

まとめ・考察

通学先の中学校に希望する部活動がない。そのような中学生を受け入れる「磐田スポーツ部活」である。今年度は陸上競技部３０名、ラグビー部２０名の登録、今後は種目を増やしていく計画。磐田市をモデル事業として今後、県内の各市町村ごとに取組みを波及させる方針、とのこと。

都城市においても、少子化が進む中、小規模校では、その傾向は激しく今後の部活動の存続（特に団体種目等）について、大きな課題を抱えているところ。

地域のスポーツ少年団で親しんできた野球やバレーボールなど団体種目が校区内の中学校にないため、校区外の中学校に止む無く入学する例もあるところ。

市内周辺部の小規模校では深刻な状況も出始めている。児童生徒数の維持は地方創生・地域活性化につながるもの。

今回の「磐田スポーツ部活」の取組みを、注視しながら、本市への導入を検討すべきものと思った。

都城市議会議長様

平成２９年７月吉日
三角光洋

研修報告書

以下のとおり報告します。

１、所属会派名　　都城志民の会

２、研修名　　文教厚生委員会行政視察

３、研修地　　静岡県浜松市、磐田市。愛知県豊川市。

４、研修期間　平成２９年７月１２日｛水｝～１４日｛金｝

５、研修の感想及び市政への反映

①　静岡県浜松市
調査項目；「はままつ友愛の高齢者プラン」

浜松市は平成２７年「はままつ友愛の高齢者プラン」を定め、６項目の重点施策を展開してき、政令指定都市の中で最も「健康寿命」が延びている自治体でもある。このことは浜松市の自然、経済、社会環境などが他市に比べてすぐれていることを実証しているとの説明であった。また、新たな介護予防活動として、ロコモーショントレーニングの普及を始め、参加者の平成２９年度目標を１万人に設定している。これは都城市の自治公民館単位で取り組んでいる「こけないからだづくり運動」とほぼ同じである。本市は現在１５０館ぐらいで取り組まれているが最終的には約３００館に増えていくこと期待したいが、市民の自覚次第なので意識の喚起と結果の検証をしっかり本人に伝え評価していく仕組みを確立することが求められる。

次に「ささえあいポイント事業」だが、ボランティア活動を通じた地域貢献や介護予防意識の向上と、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう支えあい活動の活性化を図るため本事業を始めた。施設ボランティアと地域ボラ

ンティアがある。登録研修受講後、ボランティア活動を実践すれば、ポイントが付与される。ポイントは30分について1ポイント、年間50ポイント、または100ポイント貯めて換金もでき、社協などへ寄付もできる。また、ポイントを多く貯めたボランティア「正確にはポイント限度額を超えた方から順に」協賛企業から協賛品の提供がある。例えば「医療施設から人間ドック利用券、ＪＡ商品券、ペアランチ券、カニ料理優待券」等豪華協賛である。何か楽しみながらボランティアを実践するよう仕組みが作られているのである。本市でも総合事業の生活援助で取り組みをすればボランティアが増えること間違いなしでは。

浜松市では本事業を健康づくりや介護予防など、自分自身の健康を高める活動にもポイントがつけられるよう制度の拡充を検討していくようである。

介護は今の三K職場ように煙たがれるが、今後はＩＴ化「例えばセンサー感知による排泄管理」による労働負荷低減。介護職のより一層の処遇改善など介護環境の徹底した改革・改善が待たれる。団塊世代が後期高齢者に達する2025年まであと数年、介護職が34万人不足すると試算される中で国民的議論はすすんでいないのが現状である。

② 磐田市

調査項目；「磐田スポーツ部活」

通学先の中学校に希望するスポーツの部活動がない生徒を受け入れるため、磐田市は地域スポーツクラブ「磐田スポーツ部活」を始めた。種目は「陸上競技」「ラグビー」。少子化、教員定数の減少などを理由に部活動が減少する中、生徒の選択肢を広げる新たな取り組みとして注視されている。本事業は県からの委託事業で、磐田市をモデル地域に指定するもの。また、ラグビートップリーグヤマハ発動機ジュビロのスタッフや実業団の元ＮＴＴ陸上部監督が指導に当たっている。県は今後３年間の委託期間でノウハウを蓄積し、各市町村にも取り組みを波及させる方針。しかし課題も上がっている、磐田市のように市内にプロスポーツクラブや大学が所在するところのように指導者や練習場所の確保ができるとは限らないので、プロ人材の派遣や練習場所の確保に対する助成などが必要だと言われている。また、対象種目の拡大、練習会場への「足」の確保、試合に対する中体連の「合同チームへの規定」、など今後に向けての取り組みも待たれるところである。

都城市小規模校等の対応については、

・個人戦のある競技に特化して部活動を設置するなどの工夫がみられる。笛水小中では、硬式テニスに特化し、九州大会出場を果たす。

・部活動生徒数が少ない場合には、近隣の学校と合同チームを編成して中体連

の大会に参加できるルールが設定されている。

・小規模化していく学校の中では、部活動数と顧問数にずれが生じていくため、部活動数の存続についてルールを設定している学校もある。

上記のようである。しかし、小規模校が増えていく現状を考えると、磐田市のような取り組みを含めて生徒のスポーツ種目の選択肢を減らせないような施策が求められる。

③豊川市

調査項目；「高齢者のすまいの手引き」

「地域包括ケアシステム」は、すまい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される仕組みである。最近は、より詳しく「医療・介護」「介護・リハビリテーション」「保険・予防」「生活支援・福祉」「すまいとすまいかた」と表現され、イメージ図が示されている。これらの構成要素は、ばらばらに提供されるのでなく、それぞれの役割に基づいて互いに関係しながら、また連携しながら在宅に生活を支えていく必要がある。その中で、「住まいとすまい方」は、「植木鉢」に例えられ、地域での生活の最も重要な基盤とされている。自分の今後の生活を考えながら、そして、心身の状況を踏まえながら、自宅で住み続けるのか、別の住宅に住み替えるのか、介護保険施設を利用するのか、有料老人施設に入居するのか、選択肢はとても多く、判断する材料が必要である。そこで、豊川市は、その判断の一助となるよう「高齢者の住まいの手引き」を作成したものである。

特筆すべきは「高齢者向けの施設」の名称ごとの概要、選択にあたってのポイントや民間施設ごとの詳しい金額「家賃、食費、光熱水費など」が明記され、実にわかりやすく具体的表現の手引書になっている。

また、豊川市では「人生の終わりを考える、エンディングノート」を作成している。いわゆる「終活」と言われるように、自分の人生仕舞いを整理し記録していくためのノートであるが市民には非常に好評である。

また、豊川市は周辺５自治体で広域連合を形成して「介護保険事業」を運営しているが、上昇を続ける給付費を抑えるためには良策かもしれない。何故なら各自治体のリスクの分散になりつながる可能性があるからだ。

文教厚生委員会行政視察報告書

委員名　　畑中ゆう子

平成２９年７月１２日から14日に、文教厚生委員会行政視察に参加させて頂きました。

１、はままつ友愛の高齢者プラン（静岡県浜松市高齢者福祉課）

静岡県は厚生労働省国民生活基礎調査による健康寿命が平成25年度の実績で男７２．１３歳（第3位)、女７５．６１歳（第2位）と、元気な高齢者の多い県であり、浜松市は、平成26年の厚生労働省の調査で男７２．９８歳、女７５．９４歳と男女ともに、全国２０大都市のなかで健康寿命が第１位という実績を誇っています。介護が必要となっても、できる限り住み慣れた地域で、自立した生活を続けられるよう、「地域で支え合い安心していきいきと暮らすことができるまち」として、元気な方が支援の必要な高齢者を支える仕組みづくりを提唱しています。

ささえあいポイント事業は、高齢者の社会参加を奨励・支援し、ボランティア活動を通じた地域貢献や介護予防意識の向上と、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を維持できるよう支え合い活動の活性化を図るため、平成２６年１０月から開始されています。６５歳以上の市民が平成28年実績で2860人の登録ボランティアの方が活動されています。平成29年度の計画で3000人の登録ボランティアを目標としており、施設ボランティア活動や、地域ボランティア活動がとりくまれ、ポイントが貯まると協賛企業からプレゼントもあります。

・視察の成果及び市政に反映できること。

中山間地域ボランティアの組織に特徴があり、活動する人の年齢制限がありません。２０代のボランティアの参加もあるそうです。活動内容に軽度な生活支援も含まれています。さらに、自家用車を運転、公共交通機関利用の場合は交通費の一部助成があり

中山間地域のボランティアの組織に特別な予算を確保されていることが、素晴らしいとおもいます。都城市でも早急に実施されるべきだと考えます。

２、「磐田スポーツ部活」（静岡県磐田市スポーツ振興室）

磐田市は平成28年度、県のモデル事業として、通学先の中学校に希望する部活動がない市内の中学生を受け入れる地域スポーツクラブ「磐田スポーツ部活」を始めました。

初年度に陸上とラグビーの２種目の部活動が開始され、女子サッカーの体験教室や、卓球の短期集中講座、トランポリンの体験教室などが開催されています。

・視察の成果及び市政でも反映できること。

磐田市はサッカーＪリーグのジュビロ磐田、ラグビートップリーグのヤマハ発動機ジュビロのホームタウンです。市内にはサッカー場をはじめ、陸上競技場や野球場、などスポーツ施設も数多くあり、スポーツのまちづくりをすすめています。県のモデル事業としての予算、磐田市スポーツ戦略室としての事業体制など中学校や、大学、企業との連携・協力も素晴らしい内容だと思いました。

都城市も少子化問題があり、一つの中学校で競技人数を確保することが困難な状況があります。合同部活は生徒の送迎の問題などありますが、中学校の部活の指導をバックアップする体制をつくることが、中学校教師の先生方の負担軽減にもつながると考えます。

2、高齢者のすまいの手引きについて（愛知県豊川市介護高齢課）

豊川市では、住み慣れた地域で自分らしい生活を送るために、自宅で住み続けるのか、介護保険施設を利用するのか、有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅に入居するのかなど、様々な選択肢を知ってもらうためにつくられた手引きが、4000部作成し活用されています。

・視察の成果及び市政でも反映できること。

手引きにはサービス内容や対象者、費用などが丁寧に解説されていて、高齢者のみなさんにわかりやすく大変便利なものだと思います。自宅に住み続けるための施策として、外出支援や社会参加支援促進を目的とし、70 歳以上の低所得者に豊鉄バス・コミュニティバス共通回数券が無償で交付されていました。都城市でも運転免許証を返還した場合の、高齢者の移動手段の確保を急がなくては、自宅に住み続けることが困難になってしまうと思います。

シルバーハウジングは、県営住宅や市営住宅が、バリアフリー化され、緊急通報システムを設置した住宅で、生活援助員による福祉サービスの提供を受けながら、自立した安全で快適な生活を目的とした公営住宅です。県のゴールドプランによって、整備が進んでいるそうです。都城市でも、バリアフリー化をすすめることで、住み続けることができるように公営住宅の整備をすすめるべきだと考えます。

以上。